

3 下落した企業物価と消費者物価

2012年度の企業物価（全国）は、中国など海外経済の減速による需要減退や国内企業間の価格競争を背景に3年ぶりに下落した。消費者物価（名古屋市）は、エネルギー価格が上昇したものの、耐久消費財の下落が続いたことから4年連続で下落した。

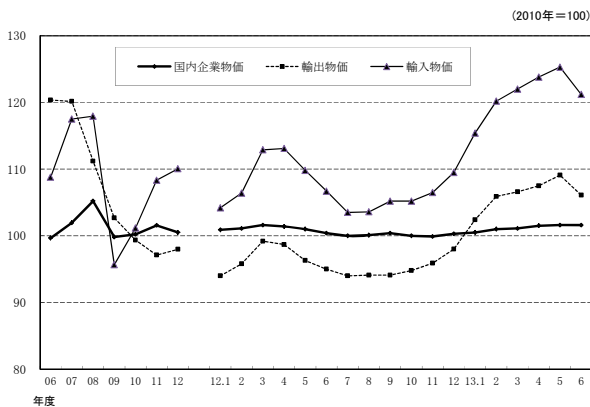
（3年ぶりに下落した企業物価）

企業物価の動きを全国でみると、2012年度の国内企業物価指数（2010年=100）は、100.5となり前年度に比べ1.0%下落した。

輸出物価指数は、前年度比0.9%上昇の98.0となり、小幅ながらも6年ぶりに上昇した。

輸入物価指数は、前年度比1.6%上昇の110.1となり、原油・天然ガスの価格上昇を反映して3年連続で上昇した。上げ幅は11年度より縮小した（図表3-1）。

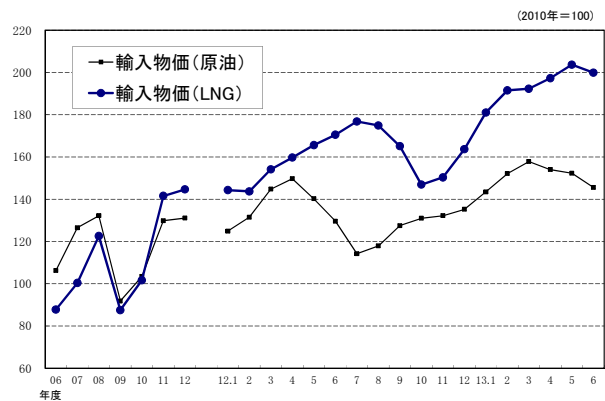
図表3-1 企業物価指数の推移



資料：日本銀行「企業物価」

輸入物価指数でウェイトの高い石油、天然ガスをみると、原油は10年度の対前年度比12.6%上昇、11年度同25.6%上昇に続き、12年度も同0.9%上昇と3年連続で上昇したが、世界的な景気減速などもあって小幅にとどまった。原発停止に伴う火力発電の代替により11年度から輸入量が大きく増加した液化天然ガス（LNG）は、10年度は同16.1%上昇、11年度は同39.3%上昇し、続く12年度も同2.2%と小幅ながらも上昇し、3年連続で上昇した（図表3-2）。

図表3-2 輸入物価指数（原油、LNG）の推移

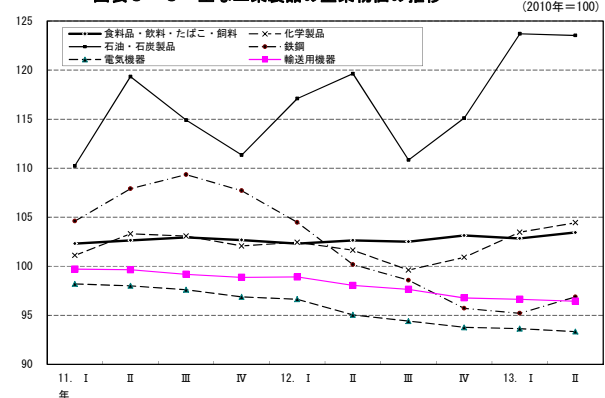


資料：日本銀行「企業物価」

（原油高の影響を受けた石油・石炭製品）

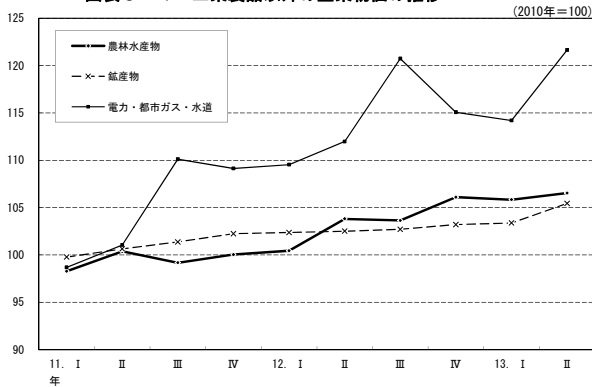
2012年度の国内企業物価を四半期別でみると、石油・石炭製品は、12年7-9月期に欧州・中国などの世界経済の減速を受け、一時下落したものの、原油高の影響を受けて12年10-12月期、13年1-3月期には急激に上昇し、その後4-6月期も高い水準を維持した。鉄鋼は、11年10-12月期以降、需給バランスの悪化により下落し、12年10-12月期からは横ばい傾向である。電力・都市ガス・水道は、電気料金の改定等を反映して12年7-9月期に大きく上昇し、その後10-12月期、13年1-3月期に下落したものの、14-6月期に再び上昇した。農林水産物、鉱産物も緩やかな上昇となった（図表3-3、3-4）。

図表3-3 主な工業製品の企業物価の推移



資料：日本銀行「企業物価」

図表 3-4 工業製品以外の企業物価の推移



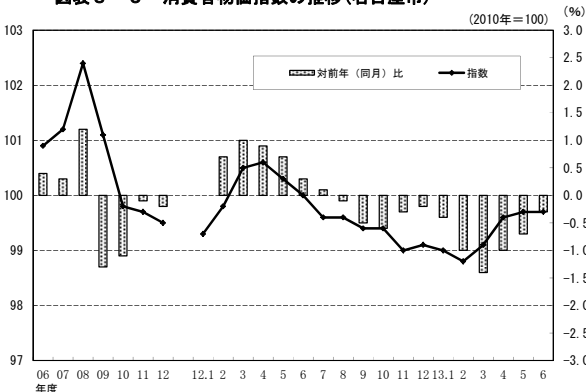
資料：日本銀行「企業物価」

(4年連続で下落した消費者物価)

消費者物価の動向を名古屋市消費者物価指数(2010年=100)の動きでみると、12年度の総合物価指数は99.5と前年度に比べ0.2%下落した。下落率は小さいが4年連続の下落となった。資源や穀物の国際的な価格上昇があり、関連費目に上昇がみられたものの、デフレ傾向は変わらず、全体としては下落した。

月別でみると、12年1月以降、光熱・水道の上昇により上昇傾向で推移したが、家具・家事用品やテレビなどの耐久消費財の下落率が拡大したことにより、5月から下落へ転じ、13年2月末まで下落が続いていたが、年度末には光熱・水道に加え、交通・通信、諸雑費の上昇率の拡大により、全体としても上昇に転じ、その後も上昇傾向が続いた。対前年同月比では、11年4月以降、光熱・水道の上昇により、全体の下落率は縮小していたが、食料が上昇したことから、12年2月以降に再び上昇を強めた。8月以降は再び下落に転じ、下落状態が続いた(図表3-5)。

図表 3-5 消費者物価指数の推移(名古屋市)

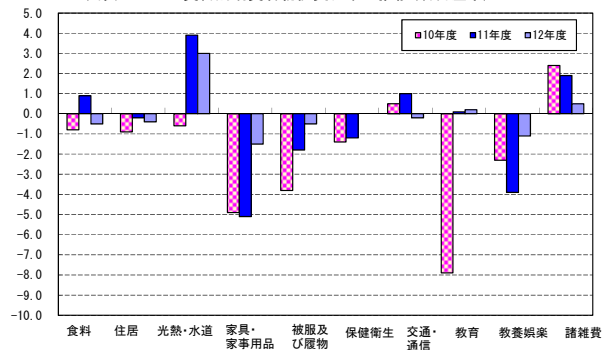


資料：愛知県統計課「名古屋市消費者物価指数」

(耐久財の値下がりにより下落した家具・家事用品)

10大費目指数の動きをみると、2012年度はテレビ、パソコンなどの教養娯楽耐久財の値下がりにより教養娯楽が対前年度比1.1%の下落、電気冷蔵庫などの家事用耐久財の値下がりにより家具・家事用品が同1.5%の下落、衣料品などの値下がりにより被服及び履物が同0.5%の下落、住居も同0.4%の下落となり、いずれも3年連続で下落した。食料、交通・通信も下落した。一方、原油、液化天然ガス(LNG)の価格上昇により電気代、ガス代、ガソリンなどが上昇したことから、光熱・水道が同3.0%上昇した。また、諸雑費が3年連続で上昇し、教育も2年連続で上昇した(図表3-6)。

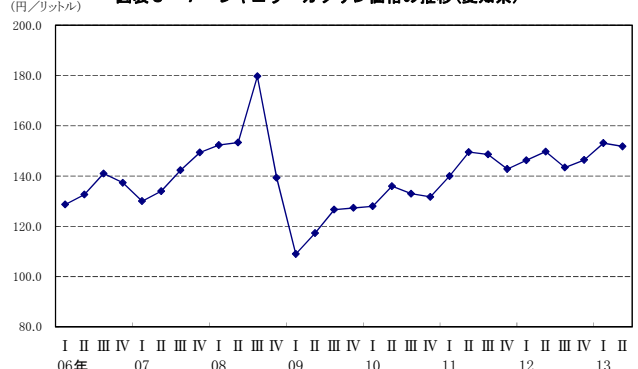
図表 3-6 費目別消費者物価変化率の推移(名古屋市)



資料：愛知県統計課「名古屋市消費者物価指数」

石油関連の消費者物価を表す代表的な品目としてレギュラーガソリン価格をみると、09年4-6月期以降上昇が続いており、11年4-6月期には約150円まで上昇し、12年に入ってから多少の増減はあるものの、13年1-3月期、4-6月期まで同水準で推移した(図表3-7)。

図表 3-7 レギュラーガソリン価格の推移(愛知県)



資料：(財)日本エネルギー経済研究所・石油情報センター